

油と油搾り機

2011年12月31日 リバイブ・イスラエル・ミニストリーズ

アシェル・イントレーター

ゲッセマネという地名はヘブライ語で「ガット・シュマニム」と言い、その意味は「油搾り機」です。ここはオリーブが集められてつぶされ、外皮と種は取り分けられます。その結果、純粋なオリーブ油が取れます。油は聖書のシンボルとして常に聖霊の油注ぎを表します。イエシュアがこの場所を、目的を持って選ばれたことは疑いの余地もありません。

私たちはみな油を求めます。私たちは油注ぎ、つまり聖霊の力を求めます。油注ぎの油は保護、供給、富をもたらす(詩篇 23:5)、知恵と支配するための権威(1サムエル 16:13)、喜び(詩篇 45:7、ヘブル 1:9)、癒しと開放(マルコ 6:13、ヤコブ 5:14)、光と啓示(出エジプト 25:6、1ヨハネ 2:27、黙示録 3:18)、教え、預言する能力(イザヤ 61:1)、賛美による親密さ(雅歌 1:3、マタイ 25:3、マルコ 14:3)、そしてさらにあります。

油と搾り機の間には動的な関係があります。これらは反対のものですが互いにバランスを取るものです。ガット・シュマニムにおいてイエシュアは十字架を受け入れました。主は自分の意志を強制的に(訳者加:神のご計画に)服従させました(マタイ 26:39)。ここは闇、抑うつ、そして困難な場所でした(マタイ 26:37)。ここは自己否定の場所でした(マタイ 16:24)。ここは押しつぶされ、死にまで従い、試練を受け、へりくだりと苦しみを通りぬけ、血、汗、そして涙を持って執り成しを行う場所でした。

油は明らかに油搾り機よりも魅力的に見えます。しかし、搾り機なしに油はありません。油は油搾り機によって作られます。真の油を作り出す他の方法はありません。その一方で、搾り機の目的は油を得るためにあります。油を得ずに服従をもって苦しむことは神の御心ではありません。搾り機は油のためにあります。油は搾り機からもたらされます。

ナイジェリアでキリスト教徒に対するテロ攻撃

アンドリュー B

クリスマスの日、ナイジェリアのいくつかのキリスト教会はイスラムの分派であるボコ・ハラムによる自爆テロの標的となりました。死者の数は45人で、73人が負傷したと報道されました。ボコ・ハラムは、今年だけで500人近い死者を出したという犯行声明を出しています。

コンパス・ディレクト・ニュース(訳注:キリスト教徒の迫害に焦点を置いたニュースサイト。アメリカに本部あり。)によりますと、この爆破によってナイジェリアの首都アブジャの郊外マダラにある聖テレサ・カトリック教会が瓦礫と化し、全国的な哀悼の地へと変えました。「この事件による衝撃は非常にトラウマとなりました。」と、ミンナ司教区のヨセフ・アコール司教は言いました。「礼拝者はこのような

事件の後恐れるようにはなりましたが、殉教者の血によって強められ、日々のミサ参拝を止めませんでした。」

この攻撃はまたこの1月に起こった、エジプトのアレキサンドリアにあるコプト教会爆破を思い起こさせるものでした。この爆破もまた過激なイスラム分派によって起こったことでした。私たちは常にこのような迫害を受ける兄弟姉妹たちのために、またその家族や生存者たちのために祈らなければなりません。

エルサレムの旧市街から見つかった粘土の印形 アンドリュー B

「神に対して純粹であれ」というアラム語が書かれた、小さいコインのサイズの、まれな印形が西壁の近くにある考古学的な遺跡から発見されました。考古学者は、この印形は第二神殿崩壊(訳注: 紀元 70 年)の時のものだと述べています。神殿の丘はユダヤ教徒、イスラム教徒双方の当局とも発掘が禁じられているため、神殿やユダヤ式礼拝に関係する遺物が発見されることはあまりありません。この小さな石のかけらはエルサレムの古代ユダヤ人住居を証しするものであり、イスラエルの地はユダヤ人に属するという聖書的な真理を支持するものなのです。

北朝鮮のための祈り アリエル・ブルーメンソール

過去2週間ほど、私たちは大勢の北朝鮮の人々が死去した彼らの指導者である金正日のために嘆き、彼の息子である金正恩が就任するのを期待する映像を見てきました。祖父である金日成は北朝鮮の「毛沢東」として考えられています。彼は戦時中の共産主義の英雄(ソ連邦で訓練、教育を受けてきた)であり、日本による占領や朝鮮戦争時の西洋の「武力侵攻」から朝鮮人を解放するための手段でした。

中国の毛沢東やロシアのスターリンのように、金氏による共産主義のブランドは彼自身に対する「個人的なカルト」と化し、彼は北朝鮮の人々から「私たちの偉大なる父」と呼ばれていました。金氏に捧げられる崇拝の度合いを想像するのは困難です。彼の写真や像はすべての家、店、街角に見られ、支配と拷問による洗脳は言うまでもありませんが、これらはイエシュアを含み金氏以外のすべてのもの、すべての人を礼拝させないようにするために必要なものでした。この「反キリスト」システムは、恐るべき迫害を北朝鮮の小さな地下教会にもたらしました。

しかし、国境を越えて韓国において、過去 60 年間で自由と豊かで民主的な国家の成長がありました。そして教会は世界で第二番目に宣教師を送り出す国となりました。(アメリカに次ぎます。アメリカは韓国より6倍も人口があるのですが。)

黙示録 5:9 には天の鉢に聖徒たちの祈りである聖なる香が満たされている様子が描かれています。私たちの世代に、大勢の韓国人は、世界全体のために熱心に捧げられた祈りによってこれらの鉢を満たしてきました。彼らの分断された国家の癒しと回復のために、彼らの祈りに加わりましょう。

1. **金一族に対するカルト的な崇拜から解放されるよう**— 二千五百万人の北朝鮮人はこのずんぐりとした 28 歳の甘やかされた男を見て、彼らの偶像崇拜が奇妙なものであると判断するように。
2. **平和的な移行と統一** 朝鮮半島の人々が礼拝の自由を得ることができ、迫害を受けている教会が強められるよう祈り、北朝鮮での福音の突破口が開かれるように。
3. **2011 年～12 年の冬の飢饉と死が碎かれるように**: 1990 年前半から北朝鮮は飢饉によって何百万人ものが亡くなり、この冬は最悪なものとなると思われます。果てしなく繰り返されるまずい管理と後進性は、食料を得るための選択肢がほとんどないことを意味しています。

祈りのためにさらに情報が必要という方は、以下をご覧ください。

<http://vimeo.com/33269431>

(韓国語。映像を見るだけでもいろいろ分かります。ただし 41 分です。)

<http://www.sagekorea.org/hall.php?lang=Eng> (英語の記事)

<http://38north.org/2011/12/aabrahamian122211/> (英語の記事)